

「モニュメンタ・ヒストリカ・ヤポニアI」(抄出)その三

豊後キリシタン研究会スペイン語部会訳

文書二十二　ローマ・イエズス会文書館ゴアの部　二十四　I百四十五―百五十一

一五八四年十二月作成　イエズス会東インド管区の司祭、修道士合併名簿

【日本の部　一五八二年二月】

説明　一五七五年の名簿と同じ形式であるが、ここでは氏名、生国、年令、健康状態、(イエズス会)入会年次、学歴、学位、職務、誓願修士か助修士の別および(立番)年次について記述しており、巡察師アレサンドロ・ヴァリニャーノの命令で、ジェロニモ・コッタが作成した。原文はラテン語。

日本の部は一五七九年の名簿(文書十九)の影響を受けているが、これは来日早々のヴァリニャーノが下地区シモにいて日本の状況が十分わからないままに書かれている関係で、不正確な面がある。本名簿は一五八二年(天正十年)二月二十日、ヴァリニャーノが日本を出発した時の状態が基準である。

安土のセミナリオは本能寺の変ののち、一五八二年六月に破壊され、生徒は京都、高槻へと移された。名簿はこれについてふれていないところから察すると六月以前の状況をしめすものである。(溝部)

日本準管区

豊後の王国

府内のコレジオ⁽¹⁾

二六六 司祭 ガスパル・コエリヨ、ポルトガル、ポルト、五三才、普通、一五五六年三月、倫理神学終了、日本準管区長。

一五七二年三誓願立誓修士

二六七 司祭 ルイス・フロイス、ポルトガル、リスボン、五四才、普通以上、一五四八年二月又は三月、哲学課程終了後

神学を二年間聴講、準管区長秘書、説教師で聴罪師、一時期豊後地区長。一五八二年三誓願立誓修士

二六八 司祭 ペドロ・ゴメス、スペイン、セウイリア教区アンテケラ、五〇才、病弱、一五五三年十二月、学習終了、哲

学教師、哲学を八年間神学を二年間教えた。説教師、十年間評議員、現在豊後地区長。一五六八年四誓願立誓修士

二六九 司祭 メルシオール・デ・フイゲイレド、東インド、ゴア、五四才、普通、一五五四年、哲学課程終了後二年間神

学を聴講、二年間ラテン語を教えた。修煉長(ゴア)、学院長。一五八二年三誓願立誓修士

二七〇 司祭 アントニーノ・プレネステイノ、イタリア、四一才、強健、一五六五年、哲学課程終了後二年間神学を聴

講、人文学を教えた。聴罪師

二七一 司祭 ジョルジュ・カルヴァリヤール、ポルトガル、ヴィセウ、三五才、普通、一五六六年五月か六月、哲学課程

終了後二年間神学を聴講、二年間ラテン語を教えた。修煉長(ゴア)。説教師聴罪師

二七二 司祭 フランシスコ・カルデロン、スペイン、オスナ教区ソリア、三七才、普通、一五六九年、学習終了、哲学修

士、説教師聴罪師

二七三 アマドール・デ・ゴイス、東インド、コチン、二四才、強健、一五七四年十月、ラテン科生

- 二七四 ペロ・コエリオ、ポルトガル、ブラガ教区ヴィリア・ド・コンデ、二六才、強健、一五七五年十月、人文学科生
- 二七五 アンドレ・デ・オリア、東インド、マラッカ、二三才、強健、一五七七年、ラテン科生
- 二七六 ミゲル・ソアレス、ポルトガル、三一才、強健、一五七七年、人文学科生
- 二七七 フランシスコ・ピレス、ポルトガル、ブラガ教区サン・フィンス、二一才、強健、一五七九年一月、人文学科生
- 二七八 ルイス・デ・アブレウ、東インド、コチン、二三才、普通、一五八〇年、人文学科生
- 二七九 ジョアン・ロドリゲス、ポルトガル、二三才、強健、一五八〇年十二月、人文学科生
- 二八〇 シモン、日本、二八才、強健、一五八〇年十二月、説教師
- 二八一 養方パウロ、日本、七〇才、普通、一五八〇年十二月、説教師
- 二八二 エマニュエル・ポラリヨ、ポルトガル、三〇才、強健、一五七七年

由（布）の住院⁽²⁾

- 二八三 司祭 ゴンサロ・ラベリオ、ポルトガル、四〇才、一五六三年十月、倫理神学終了、聴罪師、当該住院上長
- 二八四 マティアス、日本、三〇才、普通、説教師

臼杵の修練院⁽³⁾

- 二八五 司祭 ペトロ・ラモン、スペイン、三六才、強健、一五七〇年、哲学課程終了後三年間神学を聴講。修練長(ゴア)
- 現在修練院長

- 二八六 司祭 フランシスコ・ラグーナ、スペイン、カラオラ、三二才、強健、一五七〇年、学習修了、哲学士、聴罪師
- 二八七 ガスパル・マルチンス、ポルトガル、リスボン、二六才、強健、一五七六年四月、ラテン科修了、修練長秘書

- 二八八 ジョアン・デ・トルレス、日本、四〇才、普通、一五六八年、説教師
- 二八九 ジェロニモ・コレア、ポルトガル、二二才、強健、一五八〇年十二月、ラテン科生
- 二九〇 シモン・ゴンサルヴェス、ポルトガル、二三才、強健、一五八〇年十二月、ラテン科生
- 二九一 ペロ・カラスコ、ポルトガル、二三才、強健、一五八一年三月、ラテン科生
- 二九二 リノ、日本、二六才、強健、一五八一年六月、説教師
- 二九三 ジャン、日本、二五才、非常に強健、一五八一年十月、説教師
- 二九四 イグナシオ、日本、二五才、強健、一五八一年十月、説教師
- 二九五 メルシオール、日本、二三才、強健、一五八一年十月
- 二九六 フランシスコ・デ・オリア、東インド支那教区マカオ、二二才、強健、一五八一年十一月、ラテン科生
- 二九七 ジョルジェ、日本、二一才、強健、一五八三年、説教師
- 二九八 アンドレ、日本、十九才、強健、一五八三年、説教師
- 二九九 ドミンゴ・フェルナンデス、ポルトガル、四二才、強健、一五七二年、家事
- 三〇〇 ジョアン・デ・クラスト、ポルトガル、四六才、普通、一五七七年、会計

野津の住院⁽⁴⁾

- 三〇一 司祭 ジョヴァンニ・パチスタ、イタリア、フェララ、五〇才位、強健、一五（五五）年、倫理神学終了、聴罪師
当該住院上長。一五八一年終生修士
- 三〇二 ファンカ・レアン、日本、三八、九才、強健、一五八一年十月、説教師

都の王国

都の修院

三〇三 司祭 ジョヴァンニ・フランシスコ、ローマ、四四才、強健、倫理神学終了、修院長

三〇四 司祭 クリストヴァン・モレイラ、ポルトガル、三二才、おりおり眼を病むが強健、一五七七年、人文学科終了

三〇五 コスメ、日本、二八才、強健、一五七四年、説教師

三〇六 バルトロメオ・ロトンド、スペイン、三九才、強健、一五七〇年、家事

高槻の住院

三〇七 司祭 ジョヴァンニ・フルラネッティ、イタリア、ベネチア、三五才、強健、一五七一年、倫理神学終了、当該住

院の上長。聴罪師

三〇八 ミゲル、日本、二一才、強健、一五八〇年十二月、説教師

三〇九 ジェロニモ・ヴァス、ポルトガル、三三才、強健、一五七九年、

三一〇 司祭 グレゴリオ・セスペデス、スペイン、マドリード、三四才、強健、一五六九年、二年間教会法を学び哲学課

程終了後三年間神学を聴講、説教師聴罪師、当該住院の上長

三一 一 パウロ、日本、二八才、強健、一五七七年、説教師

安土のセミナリオ

三二 二 司祭 オルガンティノ、イタリア、プレシア、五二才、強健、一五五五年、哲学課程終了後神学を聴講、都地区

の上長、一五六八年三誓願立誓修士

三二三 司祭 フランシスコ・カリオン、スペイン、サラマンカ教区メディナ・デル・カンポ、三二才、普通、一五七一年
哲学、倫理神学、神学を聴講、院長

三一四 ロレンソ、日本、六〇才、普通、二〇年又はそれより以前、説教師

三一五 シマン・デ・アルメイダ、ポルトガル、リスボン、二五才、病弱、一五七四年八月、ラテン科生

三一六 ヴイセンテ、日本、四〇才、強健、一五八〇年十二月、説教師

三一七 ヤコブ・ペレイラ、東インド、コチン、三四才、強健、一五七五年四月、家事會計

三一八 ジョヴァンニ・ニコラオ、ナポリ、二六才、強健、一五八〇年、絵画

^{シモ}
下の王国

有馬のセミナリオ

三一九 司祭 メルシオール・デ・モーラ、スペイン、カラバカ、三九才、強健、一五七〇年、哲学課程終了後二年間神学
を聴講、学院長

三二〇 司祭 バルタサル・ロペス(小)、ポルトガル、カステロ・ブランコ、三六才、強健、一五六五年一月、倫理神
学終了、聴罪師、二年間ラテン語を教えた。

三二一 司祭 ダミアン・マリン、スペイン、三五才、強健、哲学課程終了後一年間神学を聴講、修練長(ゴア)。聴罪師
三二二 司祭 アントニオ・フェルナンデス、ポルトガル、ブラガ、三〇才、普通以上、一五七六年四月、哲学課程終了後
倫理神学聴講、聴罪師

三二三 ダミアン、日本、四〇才、強健、一五七〇年、説教師

三二四 ジョアン・デ・ミラノ、東インド、コチン、二六才、普通、一五七五年八月、人文学科生、ラテン語を生徒達に教

えている。

三二五 アントニオ・アルヴァレス、ポルトガル、ブラガ教区サン・ゴンサロ・アラマンテ、三三才、強健、一五七七年三月、ラテン科生

三二六 アンブロシオ・ダ・クルス、ポルトガル、二八才、強健、一五、、年、家事

口ノ津の住院

三二七 ギリエルメ、ポルトガル、リスボン、五一才、病弱、一五五八年、人文学科終了、説教師

有家の住院

三二八 司祭 アルフォンソ・ゴンザレス、スペイン、ガリシア、三八才、強健、一五七〇年、倫理神学終了、上長。聴罪師

三二九 ロケ、日本、七七才、強健、説教師

天草の王国

河内浦の住院⁽⁶⁾

三三〇 司祭 ルイス・デ・アルメイダ、ポルトガル、リスボン、六六才、病弱、一五五七年、倫理神学終了、上長。聴罪師

三三一 司祭 ジュリオ・ピアニ、イタリア、マチュエラータ、四六才、強健、一五五八年、倫理神学終了、聴罪師

三三二 ジョアン・ベルナルデス、ポルトガル、二四才、強健、一五七九年一月、ラテン科生

三三二 ゴメス、日本、三五才、強健、一五八二年一月、説教師

大村の王国

木村の住院⁽⁷⁾

三三四 司祭 アフォンソ・デルセナ、ポルトガル、ヴィセウ、三四才、強健、一五六四年、哲学課程終了後一年間神学

を聴講、哲学修士、上長。聴罪師

三三五 司祭 セバステイアン・ゴンザレス、ポルトガル、ブラガ教区シャヴェス、四七才、強健、一五五四年、学習課程
終了、哲学教師、説教師、聴罪師、一五七一年三誓願立誓修士

三三六 司祭 クリストバル・レオン、スペイン、三六才、強健、一五七〇年、哲学課程終了後二年間神学を聴講、聴罪師

三三七 司祭 アルヴァロ・ディアス、東インド、コチン、二九才、強健、一五七四年七月、哲学課程終了後短期間神学を

聴講、聴罪師、説教師

三三八 ニコラオ 日本、四六才、強健、一五八二年一月、説教師

三三九 フランシスコ・フェルナンデス、ポルトガル、ブラガ教区バルセロス近郊サンタ・マリーニャ、三五才、強健、一

五七五年九月、家事

長崎の住院

三四〇 司祭 アントニオ・ロベス、ポルトガル、リスボン、三六才、強健、一五六四年一月、哲学課程終了後三年間神学

を聴講、上長。聴罪師

三四一 司祭 ミゲル・ヴァス、東インド、コチン、三八才、強健、一五六二年、倫理神学課程終了、聴罪師

三四二 リノ、日本、二六才、強健、一五八一年六月、説教師

三四三 アンプロシオ・フェルナンデス、ポルトガル、三三才、強健、一五七八年、會計

平戸の住院

三四四 司祭 バルタサール・ロペス(大)、ポルトガル、エボラ教区ヴィラ・ヴィンソーザ、四六才、強健、一五六一年十

一月、倫理神学終了、上長。聴罪師

三四五 司祭 アイレス・サンチェス、ポルトガル、リスボン、五四才、強健、一五六二年、聴罪師

三四六 ジョヴァンニ・ジェラルディーノ、イタリア、フェラーラ、四三才、強健、一五六〇年、家事、一五七〇年か一五

七一年に終生修士

三四七 高田のリアン、日本、二五才、強健、一五八〇年十二月、説教師

ローマ派遣

(一五八二年—一五九〇年遣欧使節)

三四八 司祭 ジャコボ・デ・メスキータ、ポルトガル、ポルト教区マイアンフリオ、三一才、強健、一五七四年四月、修

辞学を履修、聴罪師

三四九 ジョアン・サンチェス、スペイン、メリダ、二九才、強健、一五六九年、人文学科生

三五〇 ジョルジュ⁽⁸⁾ 日本、二二才、強健、一五八〇年十二月、説教師

註(1)「府内の住民は八千名で、新国王(義統)が居住し、彼がこの首都を統治している。同地には三、四百名のキリスト教徒しかいないが、

我等は学院を設置した」(ヴァリニャーノ「日本巡察記」松田毅一他訳 東洋文庫 昭和五十三年)

(2)「由布と称する地が府内から七レーグア離れたところにあり、一司祭一修道士がいる司祭館がある」(ヴァリニャーノ前掲書)

(3)「修練院は、国王フランシスコが邸宅を建てて居住している豊後国中でもっとも堅固な白杵城内にある。ここに吾人は非常に広くて収容力のある場所と、きわめて優雅で美しい聖堂を有する。これは国王フランシスコが、自ら費用を負担して建てたものであり、約二十名のイエズス会員が居住している。」(ヴァリニャーノ前掲書)

(4)「白杵に近く、同所から三レーグア離れた野津と称する地には、多数の村落があり、ここに一司祭と一修道士がいる司祭館がある。この地には三千名以上のキリスト教徒がおり、さらに多数の者が改宗する扉が開かれているからである。」(ヴァリニャーノ前掲書)

(5)一五八一年の名簿(文書二十)では、津の国と若江とに住院があったが、これらは廃止されて、高山右近のいる高槻に設置された。

(6)一五八一年の名簿では、本渡と久玉に住院があったが、河内浦に統合された。

(7)一五八一年の名簿では、郡ムラに住院があったが、大村の住院に統合された。

(8)ジョルジェ・ロヨラ この名簿二九七ジョルジェと同一人物、イエズス会入会年次は一五八一年十二月である。諫早出身、遣欧使節に同行してヨーロッパへ渡ったが、帰国の途中、一五八九年八月十六日マカオで死去した。遣欧使節の対話録を日本語に訳しつあったと伝えられている。(以上註記は成田)

文書二十三 ローマ・イエズス会文書館日本の部 二十五 三一四

イエズス

インドおよびヨーロッパあて、日本管区の司祭および修道士の名簿

【一五八三年】

説明 作成年は書かれていないが、一五八三年とあとがきがある。ペドロ・ゴメス司祭の日本到着は一五八三年（天正十一年）七月二十五日であり、ルイス・デ・アルメイダ司祭の死去は同年十月であった。彼の名がこの名簿にのっていないところからみて、七月二十五日以後十月までの状況をしめしている。一五七八年にはフロイス司祭とともに豊後にいて一五八四年一月引続きともに長崎にいたイエズス会士が準管区長ガスパール・コエリヨ司祭の命令により作成に当たったものと思われる。原文はポルトガル語。（溝部）

- 一 ガスパール・コエリヨ司祭 日本準管区長
- 二 ルイス・フロイス司祭⁽¹⁾ 誓願修士、（準管区長の）顧問および勸告者
コンセサトル・ムニシトル
- 三 ペドロ・ゴメス司祭⁽²⁾ 誓願修士、豊後の上長
- 四 オルガンティノ司祭 誓願修士、都の上長
- 五 メルヒオール・デ・フィゲイレド司祭⁽³⁾ 誓願修士、府内の学院の院長
- 六 バステイアン・ゴンサルヴェス司祭 誓願修士、日本語の聴罪師
- 七 ジョアン・パティスタ・デ・モンテ司祭 イタリア人 終生修士
コアシユトル・スピリテアル・フォルマード
- 八 メルヒオール・デ・モウラ司祭 有馬の神学校の院長
- 九 ペドロ・ラモン司祭⁽⁴⁾ 豊後の王国臼杵修練院の院長
- 一〇 バルテサル・ロペス司祭 平戸の住院の上長
- 一一 アイレス・サンチエス司祭（平戸の院長の）同僚
コンパニエロ
- 一二 アフォンソ・デルセナ司祭 大村の住院の上長

- 一三 クリストヴァン・デ・リアン司祭
- 一四 ジョルジュ・デ・カルヴァリヤール司祭 (以上大村の院長の) 同僚
- 一五 アントニオ・ロペス司祭 長崎の住院の上長
- 一六 アルヴァロ・ディアス司祭
- 一七 フランシスコ・パシオ司祭 (以上長崎の院長の) 同僚
- 一八 ダミアン・マリン司祭
- 一九 バルテサル・ロペス司祭 (以上有馬の院長の) 同僚
- 二〇 アフォンソ・ゴンザレス司祭 天草の住院の上長
- 二一 ジュリオ・ピアニ司祭 (天草の院長の) 同僚
- 二二 フランシスコ・デ・ラグーナ司祭 臼杵修練院の院長の同僚
- 二三 クリストヴァン・モレイラ司祭 府内の学院に居住、キリシタン巡回担当
- 二四 アントニオ・プレネスティノー司祭 府内の学院で哲学課程を担当
- 二五 ゴンサロ・ラペロ司祭 豊後の王国、由(布)の住院
- 二六 ジョセフ・フォールラネッティ司祭
- 二七 ジョアン・フランシスコ司祭 (以上高槻の神学校に居住)
- 二八 フランシスコ・カリオン司祭
- 二九 グレゴリオ・デ・セスペデス司祭 (以上都の修院にいる)

ヨーロッパからの修道士

一 ミゲル・ソアレス修道士

二 アマドール・デ・ゴイス修道士

三 ジョアン・ロドリゲス修道士

四 ペロ・コエリョ修道士

五 ジョアン・デ・ミラン修道士

六 アントニオ・アルヴァレス修道士

以上哲学の学生

七 マヌエル・ボラリョ修道士

八 ジェロニモ・コレア修道士

九 ルイス・ダブレウ修道士

一〇 シマン・ゴンサルヴェス修道士

一一 フランシスコ・ドリア修道士

一二 アンドレ・ドリア修道士

一三 アムプロシオ・ダ・クルス修道士

一四 フランシスコ・ピレス修道士

一五 ジョアン・ニコラオ修道士 画家

一六 ジェロニモ・ヴァス修道士

以上古典文学の学生

一七 シモン・ダルメイダ修道士 高槻の神学校の教師

一八 ジャコメ・デ・ナヴァイス修道士

一九 ドミンゴス・ディアス修道士

二〇 ガスパー・カルヴァリヨ修道士

以上修練生

二一 フランシスコ・フェルナンデス修道士

二二 ドミンゴス・フェルナンデス修道士

二三 ギュリエルメ修道士

二四 ジョアン・ベルナルデス修道士

二五 アムブロシオ・フェルナンデス修道士

二六 ジェラルディーノ修道士

二七 デイオゴ・ペレイラ修道士

二八 ベルトラメウ・レドンド修道士

二九 ジョアン・デ・クラスト修道士 日本準管区の財務担当⁽⁵⁾

三〇 ガスパー・マルティネス修道士

以上終生修士

日本人修道士

一 ニクラオ修道士

二 アフォンソ修道士

- 三 ゴメス修道士
 - 四 ジアン修道士
 - 五 イナシオ修道士
 - 六 バスティアン修道士
 - 七 シマン修道士
 - 八 ガスパール修道士
 - 九 アンドレ修道士
 - 一〇 トメ修道士
- 以上修練生
- 一一 ロレンソ修道士⁽⁶⁾
 - 一二 ダミアン修道士
 - 一三 ロケ修道士
 - 一四 ヨーホー・パウロ修道士
 - 一五 ヴィセンテ修道士
 - 一六 ジョアン・デ・トルレス修道士
 - 一七 パウロ修道士
 - 一八 コスメ修道士
 - 一九 ミゲル修道士
 - 二〇 マティアス修道士

- 二一 ファンカン・リアン修道士
- 二二 シマン修道士
- 二三 リアン・ド・タカタ修道士
- 二四 ロマン修道士
- 二五 メルヒオール修道士
- 二六 リノ修道士

後者は年取っており、イエズス会において古参の者で、全員すでに誓願を立て終っている。

神学校(生徒)、司祭とともにいる同宿⁽⁷⁾と呼ばれる年少者の両者を合せて約百名である。

日本の全住院に奉仕している従僕と諸所において司祭達に随行する者およびイエズス会の命令の下に教会の守衛をつとめ、キリシタンに教理を教えるために配置されている看坊(ボンゾス)は二百名を越える。

総じてイエズス会が日本において衣食を供し、養っている者は五百名に近い。

日本においてイエズス会が養っている司祭、修道士および同宿その他すべての人々の名簿、インドならびにヨーロッパ宛

第二便

註(1) 一五八一年(天正九年)の秋、豊後から有馬、長崎に転じ、準管区長ガスパール・コエリヨ司祭の秘書。一五八三年イエズス会総長メルクリアンから日本布教史編さんの命をうけ、一五八六年にはその総仕上げのため準管区長の布教地巡察旅行に同伴し、同年末長崎で「日本史」第一巻を完成した。

(2) 一五八七年(天正十五年)、豊前の妙見で義統(コンスタンティノ)に洗礼を授け、又豊後に帰って義統の奥方(ジュスタ)および二

人の娘(サビイナ、マキシマ)ならびに世継ぎの息子義乗(フルゼンシオ)に授洗した。なお志賀太郎(ドン・パウロ)、親盛(パタリ
ン)の妻(マルタ)、宗麟の娘(ドナ・マセンシア)にも授洗した。

(3) 初代の府内学院長

(4) 初代の白桦修練院長、一五九二年のイエズス会士名簿では日本語理解の上で最高の評価を得ている。多年日本で修練院長または神学校の校長をつとめた。

(5) 日本イエズス会の財務に関係したプロクラドールは、国内(長崎)だけでなく、マカオ、マラッカ、ゴア、リスボンおよびマドリードにも配置されていた。長崎駐在の初代プロクラドールはミゲル・ヴァス司祭。彼の死後、一五八三年ジョアン・デ・クラスト修道士がその職に就任した。

(6) 一一から二六までは説教師として働いた修道士達で出生年、出生地、イエズス会入会年次および当時の在動地は次のとおりである。

- ロレンソ 一五二六年頃、肥前、一五六三年、安土
- ダミマン 一五四一年、筑前、一五六三年、有馬
- ロケ 一五三八年頃、五畿内、一五七〇年、有家
- ヨーホー・パウロ 一五〇八年頃、若狭、一五八〇年、府内
- ヴィセンテ 一五三二年頃、若狭、一五八〇年、安土
- ジョアン・デ・トルレス 一五五〇年、山口、一五六九年、白桦
- パウロ(リョウウィン) 一五五六年、天草、一五七七年、高槻
- コスメ(杉) 一五五二年、都、一五七四年、都
- ミゲル 一五六〇年頃、加津佐、一五八〇年、高槻
- マティアス 一五五四年頃、五畿内、一五七七年、由布
- ファンカン・リアン 一五三六年頃、下総、一五八一年 野津

シマン 一五五六年頃、摂津、一五八〇年、府内

リアン・ド・タカタ 一五六一年頃、豊後、一五八〇年、平戸

ロマン(田村) 一五五三年頃、豊後、一五八一年、臼杵

メルヒオール(伊予) 一五六一年頃、伊予、一五八一年、臼杵

リノ 一五五八年頃、河内、一五八一年、臼杵

(7) ヴァリニャーノ「日本巡察記」松田毅一他訳(東洋文庫昭和五十三年)「第十五章同宿とその性格、並びに日本においてこれを欠くとを得ない理由」を参照されたい。

なお一五九二年十一月から翌年一月にかけて作成の日本準管区名簿によると、当時の神学校(八良尾)生徒は九十二名、同宿百八十二名、徒モンス六百六十名となっている。(以上註記は成田)

とを得ない理由」を参照されたい。

当会出版物のご案内 (会員一、八〇〇円 会員外二、五〇〇円)

- 【会 告】
- 大分県地方史料叢書(3)「豊前国村明細帳」(一) (下毛郡宮園村等所収) (宇佐郡下麻生村等所収)
 - 大分県地方史料叢書(4)「元禄・天保 豊後国 郷帳」(正保郷帳と並ぶ必携史料)
 - 大分県地方史料叢書(5)「佐伯藩温故知新録・古御書写白杵藩旧貫史(1)」(藩別の必見史料)
 - 大分県地方史料叢書(6)「豊後国旧管地沿革記・附録・豊後国各郡沿革記」(旧高旧取調帳の誤りを正す基本史料)

※ このほか大分県地方史料叢書(1)「豊後国の村明細帳」(3)(4)(5)(6)(7)(8)もあります。